



愛と創造

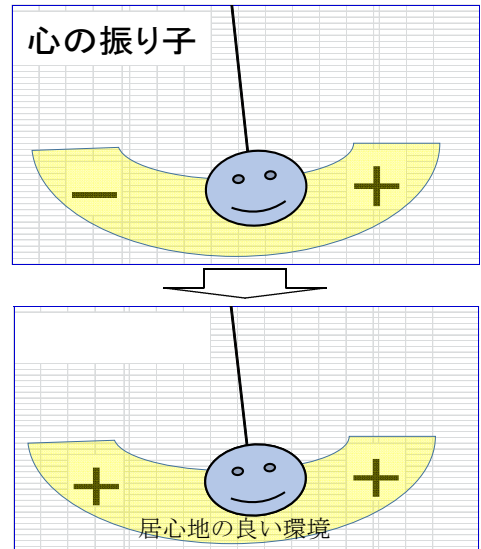
山形市立第十中学校
学校だより
H27.12.24 NO.9

2 学期終業式の話から

終業式で次のような話をしました。
心にはこのような振り子があって、たえず「+」にふれたり「-」にふれたりしています。でも、この振り子をいつも+に振れるようにすることだってできるのです。「-」を「+」にするのは環境です。とくに言語環境です。

保体委員会でいろいろ調査をしてくれました。「言われて嫌な言葉」第1位から5位は、どの学年もほとんど共通しています。「うざい」「死ね」「ばか」「キモい」。こういう人を傷つける言葉を、江戸時代の人々は「手斧（ちょうな）言葉」といいました。言葉遣いについて、江戸の人々から学ぶことが多いです。

校長 星 淳 一



■手斧(ちょうな)言葉

大工さんの道具で木を削る道具です。刃が自分のほうに向いているので、自分の足を傷つけてしまう危険な道具だったのです。ですから、「うるさい」「馬鹿野郎」「殴るぞ」「殺すぞ」といった乱暴な言葉を「手斧言葉」といい、使ってならない言葉の凶器とされていました。

■戸閉め言葉

人が話をしている途中で、「そんなの嫌だ」とか「無理無理！」など、戸をぴしゃりと閉めるように相手の話を聞きもしないで拒否する言い方を「戸閉め言葉」といいます。

■水かけ言葉

人が一生懸命話をしているのに、「それがどうしたのよ！」と冷や水をかけるような冷たい言い方や「そんなこと知ってるよ」と小馬鹿にしたり、けなすような言葉を「水かけ言葉」といいます。

■刺し言葉

相手の言ったことに対して、「はーっ?」「だから何?」など、人の感情を逆なでしたり、とげとげしい言葉遣いの中で、「刺し言葉」とか「胸刺し言葉」ともいいます。

18世紀の江戸は世界一人口が多く、きわめて人口密度が高い都市でした。ですからトラブルを避けるような「仕草や言葉の文化」が生まれたのでしょう。十中を居心地のよい環境にするだけでなく、これから社会を生き抜く上で言葉はとても重要です。全員が身につけなくてはなりません。これから頑張る点は、もう保体委員会の調査に答えが書いてありますね。

言われてうれしい言葉、第1位「ありがとう」、2位「あいさつ」。「ありがとう」つまり感謝の言葉です。感謝の言葉とあいさつ・・・3学期は感謝とあいさつで「**ことだまの幸(き)わう**」十中にしていきましょう。

//////////////////// 栄光の記録 //////////////////////

男子駅伝

第23回全国中学校駅伝(山口県)

25位

